

教育経済建設常任委員会行政視察報告書

尾 関 栄 子

○埼玉県鴻巣市市

学力向上の取り組み及びICTの効果的な活用について

【所見】

2019年9月、同教育委員会は、「鴻巣市学校教育情報化推進計画」を作成し、同計画は「社会のICT（情報通信技術）環境が劇的に変化を遂げている中、海外ではICTを教育分野に積極的に活用している反面、日本は諸外国に比べて教育分野のICT環境整備や先端技術の導入が遅れており、学校と社会が乖離しているという課題に直面している。次代で活躍すべき子どもたちに、新しい時代で生きていくために必要な資質・能力を育成するための教育情報化を推進するとともに、先端技術を活用することで教育の在り方を変化させていくことが今後の学校教育には必要である」と目的を明確化しています。予算は、5年間で機器リース料や維持管理料、教職員のサポート体制等に14億円以上の経費を計上しています。2021年（令和3年）より、市内小学校19校と中学校8校の教職員と児童・生徒へ1人1台学習用端末を導入し、本格稼働。ICT環境整備の授業デザインワークショップやスキルアップ研修、職員全員研修、遠隔教育、デジタルシティズンシップ教育（情報技術利用における適切で責任ある規範）などに取り組んでいるとのこと。鴻巣市の意気込みと教職員の努力と子どもたちの学べる態勢づくりが行われているが教職員や子どもたちの個々人にあった対応になっているかが気になりました。

足利市でも昨年から、教職員、小中学校児童生徒全員にタブレット端末を導入し、本格的なICT教育が始まりました。昨年は、ICT教育サポーターが5人配置されましたが今年度は、情報教育推進アドバイザー1人の配置にとどまりました。市内の小学校を視察しましたが一年間に2回の指導に入るとのこと。鴻巣市に学び、「予算を増額して、サポート体制の充実が急がれることを痛感しました。

○神奈川県小田原市

まちのコイン「おだちん」事業について

【所見】

小田原市SDGs（持続可能な開発目標）体感事業の「おだちん」は、神奈川県の「つながりポイント事業」と連携して、2020年（令和2年）2月から、小田原市で展開しています。「おだちん」は、SDGsに関連した取り組みを行う場合に、お金で払うほどではない「お礼」ができるコミュニティポイント。スマートフォンのアプリケーションを使って、スポットと呼ばれる店舗などと利用者の間でポイントをやり取りすることができる。例えば、買物にマイバッグ持参で100ポイント、田んぼの草取り体験（農薬化学肥料不使用の田んぼ）で500ポイント、ビーチクリーンアップ活動&干物バーベキュー参加で800ポイント付与され、廃棄処分のイカゲソ500ポイント、ビーチサンダル貸し出し50ポイントなどで「おだちん」を使える。この事業の内容は、各種メディア、ホームページなどで周知しているがSNS利用者を中心に情報が広まり、利用者の登録依頼が相次いでいるとのこと。店舗や団体などの登録スポット数は116者、登録利用者は、4,210人（6月24日現在）。この事業は店舗などの負担となる貨幣価値は、発生しない。商工会議所などに働きかけているが店舗などのスポット登録者がなかなか増えないとのこと。今後は、市内全域に働きかけていくとのこと。

視察の昼食後に寄った同市の老舗のかまぼこ店は、「おだちん」の制度を知らないと言っていました。周知の必要性和スマートフォンのアプリケーションだけでなく、業者などが参加しやすいSDGsを追求することも必要と感じました。また、SDGsを考えるきっかけとなって市民に広がっていることも学びました。神奈川県がけん引して、鎌倉市、厚木市、横浜市も同様の事業が展開されています。足利市も学ぶべき課題ではないかと思えます。栃木県にも働きかけていく必要を感じました。

以上